

深く考える

2025.1.6

「深く考える」よく使うフレーズである。深く考えることは、どういうことなのだろうか。長い時間をかけて考えることだろうか。あるいは、一生懸命に考えることだろうか。いずれも違うような気がする。時間をかけたからといって、思考が深まるとは限らない。

深く考える、それは、自分の中にいる“もう一人の自分”それも、“賢明なもう一人の自分”と対話をすることではないか。誰の中にも、もう一人の自分がいる。想像を超える賢さをもつ、もう一人の自分がいる。

我々の能力を分けているものがあるとしたら、あるいは、人生を分けているものがあるとしたら、その賢明なもう一人の自分の存在に気づき、その自分と対話する方法を知っているか否かであろう。賢明なもう一人の自分は、いつも、静かに我々の思考や思索を見つめている。そして、ときおり、素晴らしいアドバイスを与えてくれる。

想像を超える賢さ、素晴らしい能力とは何か。それは、論理思考を超えた鋭い直観力であり、データベースを超えた膨大な記憶力である。我々の心の奥深くには、何かを一瞬にして感じ取る力が宿っている。また、人生で触れたすべての情報が記憶されている。

では、なぜ、そうした能力が日常において発揮されないのであるのか。自分は直観力がない、自分には記憶力がないという、無意識の自己限定をしてしまっているからである。どうすれば、その無意識の自己限定を取り払えるのか。どうすれば、心の中に賢明なもう一人の自分が現われてくるのか。いかにすれば、賢明なもう一人の自分と対話できるのか。

無意識の自己限定をいかにして取り払うか。アイディアを例に考えてみる。アイディアは、自分という小さな存在が生み出すものではなく、大いなる何かから降りてくるものである。もし、こうした感覚を心の奥底に信念として抱くことができたならば、アイディアは不思議なほど降りてくる。決して、何か神秘主義的なことを言っているのではない。実際に、そうした大いなる何かが存在するか否かは、誰にも証明できない。

板画家の棟方志功が語った言葉がある。「我が業は、我が為すにあらず」今、自分が成し遂げようとしている仕事は、自分が成し遂げようとしている仕事ではない。大いなる何かが、自分という存在を通じて、世の中のために成し遂げようとしている。このような感覚を心に抱くとき、不思議なほど様々なアイディアや発想が心に浮かんでくる。この小さな個を超えた感覚は、ときに使命感と呼ばれている。

自己内対話により、考えを深めていく。そのための賢明なもう一人の自分を誰もがもっている。そう考えることで、目の前に見える景色が変わってくる。ものの見方や考え方方が変わる。そして、生き方が変わる。今年も深く考える1年にしていきたい。